

## 「トゥルネン＝スポーツ抗争」の帰結に関する研究 —統合組織の運動目的・方法を中心として—

都筑 真

### Study on the Consequence of the 'Conflict between Turnen and Sport': Focusing on the Purpose and the Way of the Physical Exercise in the integrated Organizations

TSUZUKU Makoto

#### はじめに

スポーツの伝播は、各国における受容、各国、各民族独自の身体運動文化がスポーツ化していくといった一定方向的なものではなかった。スポーツが世界各地に伝播し、受容されていく過程では、各国、各民族独自の身体運動文化とスポーツとの摩擦も世界各地で生じていたことが A. Guttmann の研究によって指摘されている<sup>1)</sup>。このことに鑑みれば、スポーツの歴史は、その伝播や受容の歴史である一方で、それに対する抵抗の歴史であったといえる。

スポーツに最も抵抗したのは、ドイツでトゥルネンを行う者（トゥルナー）であったとされている。トゥルネンは 1811 年に F.L. Jahn によって創始され、一般に「器械体操を中心とする多面的な身体運動によってなされる国民教育の一形式」と定義される<sup>2)</sup>。器械体操と並んで、徒手体操、走・跳・投の運動、球技、水泳など様々な運動種目を行うことによって身体を鍛え、愛国心や民族意識を涵養していくことがトゥルネンの目的であった。1868 年にはトゥルネンの統轄団体であるドイツトゥルネン連盟 (DT) が結成された。1871 年にドイツ帝国が創設されたことによって、トゥルナーの悲願であったドイツ統一が実現した後、DT は体制的で、排外主義的な性格を帯びていった。

ドイツでスポーツの統轄団体が創設され始めた 1880 年代以降、トゥルナーはスポーツを批

判していった。そしてこれに対してスポーツ指導者 C. Diem は 1907 年以降、反論を展開した。また 1912 年以降は陸上競技、フットボール、水泳の統轄権をめぐる DT と 3 つのスポーツ連盟（ドイツ陸上競技連盟 (DSBfL)、ドイツフットボール連盟 (DFB)、ドイツ水泳連盟 (DSV)）が対立し、この対立は 1930 年まで続いてく。1880 年代から 1910 年代にかけてのトゥルナーのスポーツ批判、それに対して 1907 年から 1914 年にかけて Diem が行った反論、そして 1912 年から 1930 年まで続いた運動種目の統轄権をめぐる DT と 3 つのスポーツ連盟の対立は、一般に「トゥルネン＝スポーツ抗争」（以下「抗争」）といわれている。

筆者はこれまで、スポーツの伝播に伴う各国、各民族独自の身体運動文化との摩擦の典型的な事例として、ドイツの「抗争」の実態解明に取り組んできた。それによって、「抗争」ではトゥルネンとスポーツの相反する運動目的・方法や運動種目の統轄方法が争点となったこと、そうした中で Diem が双方の結節点や妥協点を見出すことによって争点の解決に寄与したことを明らかにした。

とりわけ統轄権の問題に関して、DT と 3 つのスポーツ連盟は 1930 年に、陸上競技、フットボール、水泳を共同で統轄することを定めた協定を締結し、和解したが、協定では和解の最終目標としてドイツのトゥルネン・スポーツ

諸団体の統合組織の結成が掲げられた。統合組織の設立に向けた動きはナチスが政権を獲得した1933年以降に始まった。統合組織に関して、従来のドイツスポーツ史研究では、統合組織の中央集権的で、指導者が命令し他の者は指導者に従うというナチスの「指導者原理」(Führerprinzip)に基づく組織構造や、ナチスのイデオロギーを浸透させるために統合組織の中で展開された政治教育など、統合組織に及んだナチスの影響に焦点が当てられてきたが、統合組織の設立を「抗争」の終着点として着目した研究はなされてこなかった。DTと3つのスポーツ連盟が1930年に結んだ協定の中で統合組織の結成が和解の最終目標として定められていることから、「抗争」が最終的にどのような帰結を迎えたのかを明らかにするためには、協定が締結された1930年までではなく、それ以後に実現した統合組織の結成までを追う必要がある。

ナチス期のドイツスポーツ史研究の泰斗 H. Bernett が指摘するように、ナチスの影響下で1933年以後になされたドイツのトゥルネン・スポーツ諸団体の統合は、ワイマル期までそれぞれ別個に活動していた市民層、労働者、教派(カトリックとプロテスタント)のトゥルネン・スポーツ諸団体の連合組織の解体、これらの連合組織に属していた諸団体を一時的に統合するために組織された帝国指導者連合(Reichsführerring)の創設(1933年5月)、帝国指導者連合のドイツ帝国体育連合(DRL)への改組(1934年3月)という過程を経て達成された。それ故、本研究が研究対象とするのは、ドイツのトゥルネン・スポーツ諸団体の統合組織であった帝国指導者連合とDRLとなる。

「抗争」の争点が相反するトゥルネンとスポーツの運動目的・方法、運動種目の統轄方法であったことから、それらと、統合組織が掲げた運動目的・方法、採用した運動種目の統轄方法との関連性を考察することが、「抗争」の帰結を解明するために必要であると考えられる。このうち、本研究では統合組織において掲げられた身体運動の目的・方法を明らかにし、そしてこれらが、「抗争」の中で浮き彫りにされた、相反するトゥルネンとスポーツの運動目的・方法とどのように関連しているのかを考察することを研究課題とした。

## 1. 帝国指導者連合が掲げた運動目的・方法

DTと3つのスポーツ連盟の和解の最終目標である「トゥルネン・スポーツ諸団体の統合」に向けた動きは、ナチスが政権を獲得した1933年に、市民層のトゥルネン・スポーツ諸団体の連合組織であるドイツ体育委員会(DRA)が自主解散したことからはじまった。しかし統合はDTや各スポーツ連盟によってではなく、国家から統合を一任された突撃隊のH.v. Tschammer und Ostenによってなされ、彼は「分裂したドイツのトゥルネン・スポーツ運動を一つの連合に統合する」という使命を政府から帯びていた<sup>3)</sup>。

1933年5月24日、帝国スポーツ委員のTschammer(1933年7月19日以降は帝国スポーツ指導者)は、内務大臣 W. Frick との合意の下で、「ドイツの身体運動の再編」と題する指導原則を告示した。指導原則の冒頭では、ドイツの身体運動の目標が以下のように示されている。

「身体教育は、身体を通して完全なる人間へと教育していくことを意味している。身体運動が正しく計画され、実施されるならば、身体運動は身体を鍛えるだけでなく、精神や人格にも影響を及ぼしていく。完全なる人間とは共同体の人間のことであり、個々人の健康や達成能力は、我が国民全体の力の一部であり、国民全体の力を保持し、可能ならば高めていくことが、我々の課題である。トゥルネン・スポーツ諸団体は、私人の個人的な福祉を促進していくために存在しているのではない。むしろ身体運動は国民生活の重要な一部を形成するのであり、国家の教育システムの基盤となる構成要素なのである。…トゥルネンとスポーツはいかなる個人主義的な態度からも切り離され、真に国民的なものとならねばならない。老若男女全てにとって、共同で実施される身体運動が兵士のような徳を身につける場となり、国家的精神の学校とならねばならない。個人主義的なスポーツ活動の時代は過ぎ去ったのである。」<sup>4)</sup>

Tschammer は、身体運動を「国民生活の重要な一部を形成」するもの、「国家の教育システ

ムの基盤となる構成要素」と位置づけている。しかし彼は、身体運動が「個人的な福祉を促進」するものではなく、「完全なる人間へと教育」する場、「兵士のような徳を身につける場」、「国家的精神の学校」となることを求めている。次いで、Tscharmer は身体運動を推進する協会のあり方について言及している。

「トゥルネン・スポーツ協会は、[身体] 運動の真の推進者である。…この大概は健全で、価値ある協会生活の独自性は、可能な限り干渉されるべきではない。…同様にスポーツの独立生活が強制的に変えられるべきではない。しかし全ての協会は、若きドイツ人を、民族共同体をしっかりと意識した立派なメンバーへと育成する義務を認識し、全般的な身体訓練と並んで従属心や共同体精神を涵養する教育を促進していかなばならない。このような目標の通達によって、協会は常にあらゆるスポーツ種目の推進者となるであろう。」<sup>5)</sup>

Tscharmer は、身体運動を行うトゥルネン協会やスポーツ協会の活動が「干渉され」たり、「強制的に変えられ」るべきではないと主張しながらも、「全般的な身体訓練」や「従属心や共同体精神を涵養する教育」を義務としてトゥルネン協会やスポーツ協会に要求している。Tscharmer が要求した多面的な身体運動、従属心や共同体精神の涵養は、1880年代から1910年代にかけて行われたトゥルナーのスポーツ批判の中で、スポーツと対置されるトゥルナーの特徴として示されたものであった。このことに鑑みれば、Tscharmer はトゥルネン的な運動目的・方法を、身体運動を行う協会の義務として掲げたといえよう。

ドイツの身体運動の目標や身体運動を推進する協会のあり方を示した上で、Tscharmer は、統合組織の構造について述べている。彼は、DRA に加盟していた団体を種目や職業に応じて15の「専門連盟」(Fachverband) に改編した。そして Tscharmer は、上記の指導原則の下、自身と専門連盟の「指導者」(Führer)<sup>6)</sup> 15名によって帝国指導者連合を創設することを表明し、この組織が15の専門連盟を傘下におさめる統合組織となった<sup>7)</sup>。1933年7月13日に開

かれた帝国指導者連合の第1回会議ではこの組織が、解散したDRAの活動を引き継ぐことが確認された<sup>8)</sup>。

## 2. DRL が掲げた運動目的・方法

1934年3月9日にTscharmer は、帝国指導者連合をDRLに改組することを表明した。改組の理由を彼は、帝国指導者連合がドイツの身体運動を表面的に統合したに過ぎなかったためであるとしている<sup>9)</sup>。1934年7月にニュルンベルクで開催されたドイツ競技会において、DRLの構想が公然と示された。Tscharmer は、この競技会が「ドイツのトゥルネン・スポーツ運動の長きに渡る分裂」を解消し、「統一」をもたらす場になると見做していた<sup>10)</sup>。競技会中に催されたDRLの第1回会議では、15の専門連盟を21の「専門部」(Fachamt) に改変することが「組織上の基本原則」として定められた<sup>11)</sup>。このように組織の輪郭を現しつつあったDRLの意義は、「民族と国家の統一、つまり民族の力と政治権力の統一が国家の中でなされるというヤーンの思想」が実現したことであると帝国スポーツ指導者の機関誌は報じ、DRLの思想はトゥルネンの創始者であるJahnから受け継いだものであることを強調している<sup>12)</sup>。

1935年2月には、DRLにおける身体運動の指針となるべき会則が初めて公表され、それを加筆・修正したものが1936年1月1日にDRLの会則として作成された。会則に示されたDRLの目的は、「国民社会主義国家の精神に基づいて計画的に実施される身体運動と民族意識の涵養による、加盟組織において結束したドイツ人の身体的、人格的教育」であった<sup>13)</sup>。そしてこの目的を達成するための手段として「身体運動の普及」、「[DRLの]メンバーである民族同胞の身体教育、世界観的教育」、「国際的なスポーツ交流の促進と指導」などが掲げられている。「ドイツ人の身体教育、人格教育」が「国民社会主義国家の精神に基づいて」なされることがDRLの目的として強調され、この目的達成の手段を記した文言の中にも「民族同胞」や「世界観的教育」の語が用いられ、ナチスの影響が会則に色濃く出ている。1880年代から1910年代にかけて行われたトゥルナーのスポーツ批判の中で、スポーツと対置される

トゥルネンの特徴として示された「民族意識の涵養」、そしてトゥルナーと同様に、権力掌握以前のナチスが批判してきたスポーツの国際性も、「国民社会主義国家の精神に基づいて」なされる「身体教育、人格教育」の一手段として利用されていくこととなったのである。

#### おわりに

DTと3つのスポーツ連盟の和解の最終目標である「トゥルネン・スポーツ諸団体の統合」組織として1933年5月に設立された帝国指導者連合では、トゥルネン的な運動目的・方法が称揚された。しかし翌年3月に同連合が改組されて成立したDRLでは、「ドイツ人の身体教育、人格教育」が「国民社会主義国家の精神に基づいて」なされることが組織の目的として掲げられ、トゥルナーのスポーツ批判によって浮き彫りになったトゥルネンとスポーツの特徴も、この目的達成の一手段として用いられていくこととなったのである。

#### 注

- 1) Guttman, A., *Games and Empires: Modern sports and cultural imperialism*, New York, 1994.
- 2) Bernett, H., *Grundformen der Leibeserziehung*, Schorndorf, 1975, S.33.
- 3) Mengden, G.v., *Deutscher Reichsbund für Leibesübungen*. In: Breitmeyer, A./Hoffmann, P.G., *Sport und Staat*, Bd.2, Berlin, 1937, S.121.
- 4) *Deutsche Turnzeitung*, Nr.22, S.410, 1933.
- 5) ebenda.
- 6) 1933年5月24日にTschammerが「ドイツの身体運動の再編」と題する指導原則を告示する以前から、指導者原理を導入する団体が存在していたが、この指導原則の告示後は、どの団体にも指導者原理が導入され、団体の長の名称が「会長」(Vorsitzende)から「指導者」(Führer)に改められた。
- 7) *Deutsche Turnzeitung*, Nr.22, S.410, 1933.
- 8) Mengden, G.v., *Vom Deutschen Reichsausschuß zum NS-Reichsbund für Leibesübungen*. In: DSB(Hg.) *Jahrbuch des Sports*, Frankfurt am Main, 1955/56, S.61.
- 9) Mengden, G.v., a.a.O., 1937, S.126.
- 10) *Reichssportblatt*, Nr.18, S.508, 1934.
- 11) *Reichssportblatt*, Nr.25, S.703, 1934.
- 12) *Reichssportblatt*, Nr.24, S.670, 1934.
- 13) Nürk, S., *Sport und Recht*, Berlin, 1936, S.128.